

平成28年度 第2回男女共同参画推進委員会 議事録

日時	平成28年9月6日(火) 開会：午前10時 閉会：正午
会場	自治会館 1階 大会議室
出席	足立、上野、杉山、平野、金丸、坂口、関根、小島 事務局(川上室長、福田室長補佐、鈴木主事)
資料	資料 蕨市男女共同参画推進員について これから実施予定の男女共同参画事業について

1. 開会

2. 会議の公開及び傍聴について

「蕨市市民参画と協働を推進する条例」に基づき定められた「審議会等の会議の公開に関する要綱」により、この会議の公開を決定し、傍聴に関する取り決めを行った。(今回、傍聴者はいなかった)

3. 議題

(1) 蕨市男女共同参画推進員について

(事務局) 資料「蕨市男女共同参画推進員」についての進捗状況報告

【委員からの意見】

(委員) 男女共同参画推進のモデル地区が13年かけて一回りしたとのことだが、結果として何か変わったこと、得られたことはなにか。

(事務局) 男女共同参画の啓発は、一朝一夕に結果が出るものではないので、この事業によって結果が得られたというものはこれですと、お示しできないのですが、事業を地道に行っていくことが前進していくことだと思っている。

モデル地区について主な事業をご説明します。平成15年から平成19年まで中央地区で初めて実施した。ここでは、中央地域パートナーシップの会がコミュニティ委員会の中に発足し、中央地域の団体調査として男女共同参画に関するアンケートを実施した。平成16年には、蕨市男女共同参画推進委員会の委員長であり、埼玉県男女共同参画推進センターで事業コーディネーターをなさっていた平賀圭子さんを講師に講演会を行っている。翌年には、歴史作家の中島道子さんによる男女共同参画の講座を開催し、年度末にはパネルディスカッションも実施した。平成17年の10月に題名が、「いまこそ」というリーフレットを3,000部作成し、中央地域で回覧をした。同じ年に作家の林家ライス子・カレー子さんによる男女共同参画の講演会を中央小学校で、翌年には中央東小学校で開催した。次のモデル地域は、塚越地域で平成19年から平

成21年まで実施し、平成19年は、林家うん平さんに、「聞いて笑って男女共同参画」という講演会を、同年に埼玉県知事の特別秘書であった柿沼トミ子さんによる、「地域で進める男女共同参画」という講演会を開催した。翌年には、平賀圭子さんをお呼びして、「仕事も家庭もプライベートも充実させる生き方～ワークライフバランス～」という講演会を開催した。また塚越コミュニティ委員会では、モデル地域の期間が終了した後も、男女共同参画フォーラムを年1回開催している。次のモデル地域は、平成22年6月から平成24年6月まで錦町地域で実施し、三遊亭歌之介さんによる、「心に響く笑いと涙の人生学」という講演会を、翌年には、フリーアナウンサーの小島奈津子さんによる、「女子アナ、妻、母 私のワークライフバランス」という講演会を開催した。また、この年から公民館発行の館報に男女共同参画のコラムを掲載してもらうことになった。次のモデル地域は、平成24年から平成26年まで南町地域で実施し、元南小学校の校長先生の佐藤秀子さんにお越しいただき、「夫婦ふたりでワークライフバランス 38年の教職人生を振り返って」という講演会を、翌年には三遊亭亜郎さんの、「ミュージカル落語で聴く男女共同参画」という講演会を実施した。最後のモデル地域は、平成26年から平成28年まで北町地域で実施し、早稲田大学の浅野幸子研究員にお越しいただき、「男女共同参画の視点に立った地域防災のすすめ」という講演会を、翌年には創作落語家の千金亭値千金さんによる、「落語と歌を聴いて考える 誰もが住みやすい世間は作れるか」という講演会を実施した。

(委員) 今後要綱を作成していくという事だが、男女共同参画推進委員会としては、作成された要綱を確認するという事によろしいのか。

(事務局) そのとおり。

(事務局) 今後、あまり時間がないなか、男女共同参画推進員設置を進めていくが、コミュニティセンター所長も各地域の委員も、前向きに推進員を捉えている。モデル地域を13年間実施してきた結果が見えてきているのかなと感じる。推進員を設置した後は、今までのモデル地域の実施内容を大きく変えるというのではなく、地域で地道に男女共同参画を推進していく。

(委員) 推進の仕方は、今までのモデル地域の取り組みを踏襲するのか。

(事務局) 各地域のコミュニティ委員に相談して、今までも地域に合ったものや東日本大震災の後には、防災と男女共同参画について取り上げるなど、その時に合ったものを実施してきたので、今後はモデル地域という言葉は外れるが、各地域を中心に実施していき、事業内容については、その都度相談して決めていきたい。

(委員) コミュニティ委員会は地域の色々な課題を見つけて、みんなで解決していくという組織。男女共同参画の推進員もその中に入ってこそ意義がある。色々なテーマが各地区のコミュニティ委員会にはあると思うが、その中の柱のひとつとして地域の男女共同参画を入れないと推進していかない。塚越地区では、地域が取り組む一つのテーマとして男女共同参画が入っている。今後、要綱がで

きたら、各地域のコミュニティ委員会が時間をかけ、男女共同参画の活動を地域に染み込ませることも重要ではないかと思うし、地域に男女共同参画を普及させるという意味で、地域の人が推進員になる意義は大きい。

(2) について

(事務局) 資料「これから実施予定の男女共同参画事業」について報告

【委員からの意見】

(委員) 9月16日に行われる、女性活躍推進セミナーは、急に開催が決まったのか。

(事務局) 企画自体は春先から計画していたが、県や県の委託先の埼玉新聞社等との会議の日程調整の関係で、チラシの作成が遅れてしまった。

(委員) セミナーの対象者は。

(事務局) 経営者、管理職、人事担当者がメインターゲットだが、どなたでも参加できるようにしている。

(委員) 蕨市内で301人以上の従業員がいる企業は把握しているか。

(事務局) 具体的に把握はしていないが、市内の沖電気や大日本印刷、オプトエレクトロニクスなどの大きな企業には声掛けをしている。

(委員) イクジイ・イクバア講座の中身は、どのようなものか。

(事務局) イクジイ・イクバア世代に、講座を通して固定的性別役割分担を払しょくしてもらおうと考えている。おじいちゃんおばあちゃんからの何気ない一言で育児に不安を抱える若い夫婦もいるので、若い夫婦にとって助けとなるようなおじいちゃんおばあちゃんになってもらうのが目的である。

(委員) 具体的には、どのような講座になるのか。

(事務局) 今後内容について考えていくが、昔と今の子育ての仕方を対比したり、実践をしたりと考えている。

(委員) 人を集めるために、宣伝方法を工夫して欲しい。

(委員) ネーミングの工夫をして欲しい。

(事務局) 例えば、子育ての内容として授乳の時間や卒乳のタイミング、白湯をあげるあげないなど、昔と今では子育ての常識が変わってきている。後は、具体的に昔の遊び方などを体験し、知識と実践を含んだ講座を考えている。

(委員) 若い夫婦から、おじいちゃんおばあちゃん世代に子育ての要望を言ってもらう方が、身内に言われるよりすんなりと受けとめられる。私も初めて孫が生まれて驚いたのは、生まれてすぐに産湯に入れないこと。消毒液できれいに拭いて、最後の退院する日に初めて父親が呼ばれて産湯に入れる。納得できないところもあるのだが従っていかなければいけないところが一杯ある。

(委員) おじいちゃんが子育ての手助けをしてくれるが、ただテレビを一緒に見るとかではなく、外で遊んでくれると嬉しい。けん玉をしたり、ベーゴマしたりなど一緒に遊びませんかという企画なら、おじいちゃんも参加したいと思うのではないか。

- (委員) イクジイ・イクバアからのあるある話もよいのかなと。お互いに理解が進むような講座が良いと思う。
- (委員) そのような場で、イクジイ・イクバアから意見を言わせていただくと、角が立たないで聞いてくれると思う。孫の面倒を見るのが当たり前になると、若い夫婦からの感謝の言葉もなくなってくる。
- (委員) 核家族が多いので、育児の継承がされていない。若い世代の友達だけでは、育児についてどうしたら良いのか聞ける人がいないという人もいる。昔子育てをしていた世代の人は、育児の知恵も豊富に持っているが、若い夫婦は聞く機会が少なく、同居が多かった昔は子育ての継承がされていたが、今はされていないのかなと思う。子育てのポイントをおじいちゃんやおばあちゃんから聞こうという講座だったら良いのではないか。
- (事務局) 科学的な面ではなく、子育ての知恵や、叱り方のポイントや姿勢など文字にならないような部分がありますね。
- (委員) 今は、子育ての情報がインターネットなどで氾濫していて、どうすれば良いのか迷う人がいるので、子育てのポイントを教えてくれる人がいると助かると思う。
- (委員) 私も子育てをしていた時に両親に子どもを預けることがあったが、その際に困ったのが、子供が熱を出した時の対処だった。具合が悪い時の知識を講座でやってもらえると安心かなと思います。
- (委員) 清瀬市には、急な時でも子どもを預けられる子育て支援グループがあるので、蕨市でも地域にそんなグループがあると、待機児童の解消にも繋がるのではないと思う。
- (委員) 中学生向けのデートDV啓発事業は、今年も市内3つの中学校で実施するが、講師は、今年も昨年と同じか。
- (事務局) 同じ予定です。
- (委員長) 参加した中学生が面白かったよと言っていたので参加したい。
- (事務局) 保護者の方や地域の方も参加していただきたい。
- (委員) 素晴らしい取組みなので、続けて欲しい。
- (事務局) 講座を受けた生徒の中で、デートDVの問題は、いじめや人権問題にも繋がっていると感じた子もいる。

3. その他

【委員からの意見】

- (委員) イクメンフォトコンテストのチラシに趣旨が入っていないので、入れて欲しい。それと、フォトコンテストの審査の際に写真の良し悪しで判断すると男女共同参画の趣旨から外れてしまうのではないかとということで悩むと聞いたことがある。それから表彰式は、内々で終わらせないで何かの事業と組み合わせて実施して欲しい。
- (事務局) 色々な視点が入るように審査員には、様々な立場の方をお呼びしている。プ

ロの写真家は写真として、新聞記者は写真のインパクト性、パートナーや男女共同参画推進委員の方は、男女共同参画の雰囲気が出ていてのものを選んでいただいている。そのような様々な人からの意見を受けて、総合的に決めさせていただいている。それと表彰式については、男女共同参画推進員による事業の開催をどこかの地域で考えているので、その中で行えれば思う。

(事務局) 今の蕨市の男女共同参画の取組みの中では、昨年の配偶者暴力相談支援センターの開設などもありDVの比重が重くなっているので、男女共同参画推進委員会の意見なども聞きながら、男女共同参画の啓発についても着実に進めていきたいと思う。

(委員) フォトコンテストの入賞作品は、広報やポスターに掲載されるのか。

(事務局) 応募の際に、市の男女共同参画事業に使わせていただくことを前もって了解してもらっているので、啓発に使用している。蕨駅やイトーヨーカ堂錦町店などでパネル展を開催するなど、広報に努めている。今年は、初めて蕨駅にポスターを貼り、また、各小学校と市内保育園にもポスターを貼っている。

(委員) 地域での子育てをしている方にも対象を広げてはどうか。

(委員) わが子でなくても地域の子育てに関わっている男性も多くいる。

(委員) イクジイ大賞や地域子育て大賞もどうか。

(事務局) ぜひ検討したい。

(委員) 今年度のDV相談件数は？

(委員) 今年度はまだですが、26年度と27年度を比べると倍になっている。今現在ですでに100件を超えている。

(委員) 相談窓口の宣伝がされて増えたのか、それともDVが増えてその件数なのか。

(事務局) 相談窓口が宣伝されて、増えたのだと思う。

(委員) DV相談したくてもできない人もまだまだいっぱいいる。児童虐待も増えてきている。

(委員) 健康まつりの時に、民生委員は児童虐待防止の啓発を行ったりしている。

(事務局) 11月に女性に対する暴力根絶を推進する期間があるので、10月の児童虐待防止推進月間と併せて、民生委員と一緒に何かできれば良いですね。

(委員) 連れ子の場合も、児童虐待が多いと思う。

(事務局) 児童虐待を担当している部署とは、DVがある家庭では、児童虐待はあり、逆に、児童虐待がある家庭では、夫婦間のDVもかなりの確率であるという共通認識を持っている。警察も児童虐待とDVをセットで考えるようにしている。また、DV被害者の母親から、子どもが父親に怒られないように先回りして怒っていたら、習慣化してしまい、父親が怒らなくても子どもを怒ってしまっていた人もいたという、相談も受けたことがある。

(委員) DVパンフレットは、赤ちゃん訪問の際に一律に配布しているのか。

(事務局) それが配られると危険な家もあるので、一律に配布はしていない。それと、先日保健センター主催で開催したイクメン講座は、子育てのテクニックの中身ではなく、夫婦と一緒に子育てをする際の心構えや、夫婦での良いコミュニケ

ーションを学びましょうという講座で、有意義であったと聞くので、今後そういうのを広めていきたい。

(委員) その講座は、外部講師か。

(事務局) 外部講師です。

(委員) 好評なら、回数を増やして欲しい。

5. 閉会